


 巻頭言

考えは柔軟で自由であってほしい



富山県農林水産総合技術センター 守 川 とし 俊 ゆき 幸

先日、母校に訪れる機会があった。今や、ジャージにサンダル履きのボサボサ頭の学生は見当たらず、建物は改修され、かつての古臭さは軽減されていた。

研究室の廊下から見下ろす桜の花びらはほとんど散っていたけれども、幹は太く大きく成長しているように思えた。かつて、その桜の木の下を歩いているとき、植物病理学研究室の寺中理明教授から声をかけられたのが、今の自分の出発点である。先生の人柄に惹かれて始まり、その後、様々な人たちと巡り合い、助けられ、時には切磋琢磨しながらも、よりよい研究を行うことを常に標榜してきたように思う。就職したばかりのころは、素敵な人たち（球根生産者の皆様）に褒めてもらいたくて、その後は彼らの生活を守るという使命感で、さらには、どのように社会貢献していくかについて、ひたむきであったと思う。今も成長は追いつかず、今になって気づくことも多い。

さて、めぐる情勢は、労働者人口が減少し、消費は減少しつつもニーズは多様化し、技術開発の立ち位置は、省力・低コスト、高付加価値、競争力、輸出、環境、安全・安心、脱炭素、食料戦略、スマート農業技術等々、様々なことに応じることが求められている。守備範囲の Society は 2.0 から 5.0 までと実に広範囲である。何より、生産現場の課題も散在していてとにかく忙しい。こうした中、今の若い研究・技術者はじっくりと考える余裕がないように思う（たぶん、昔以上に考える必要があるのに）。周辺には様々な考えがあって、どれもが正解で、答えは一つではないのに、体系化も図らねばならない。

2013年に全国の仲間たちと生態と防除研究会（植物病害カンファレンス）を設立し、第1回研究集会を富山市で開催した。本研究会は成果の発表や情報収集の場ではなく、相互に高め合うこと、連携してストラテジーを構築することを目的にしている。若い研究者をスピーカーとして選び、アイデアや意見を交わし、それぞれが学び、育っていく場所、そんなプラットフォームを提供したいとの願いもあった。コロナ禍の影響で、開催は一時休止されているが、毎年、国内の各地で開催されてきた。また、2020年には、ここでの議論や連携を具体化する機会を設けたいと考え、「知」の集積と活用（産学官連携協議会）に「植物病害カンファレンス研究開発プラットフォーム」を設立したところである。

先に申し上げた通り、なんだか忙しく、考える時間は

限られているが、仲間たちとの議論の中に発見は多いし、新しい道が拓けると思う。途方に暮れたとき、電話やメールの一つで有用な知見が得られる関係性は大きな財産である。各地の技術者が相互に人材育成の手助けを行い、若い人たちが全国に連携の輪をつくり、さらに相互に高めあってくれたらと願っている。冒頭で述べた通り、小生自身、人との巡り合いの中で成長してきたように思うし、それがよい研究につながっていたと思う。社会に貢献できる研究が一つでも多く実現されることを期待している。

さて、時は、イノベーションで課題を克服しようとしている。農業分野でも、スマート農業の推進とともに、生産力向上と持続性の両立を図るためのイノベーションの創出が求められている。人口（労働力・消費）の減少は、社会構造を大きく変えていくだろうし、温暖化は未知の領域に入っていく。その他のことも含め、もはや、やるしかない時期に来ているのだと感じる。

植物保護分野では IPM の果たす役割は大きい。一方、機能していない IPM の多くが、ユーザーにとっての「価値」を想定せずに、ただただ理念と技術を押し付けているように思える。「Integrated Pest Management」の画像を web 検索してみると、海外の彩色された IPM の概念図を見ることができる。毎年、少しずつ検索されるギャラリーは変化していて、IPM はうごめいていると感じる。そして、それぞれの概念図の考え方は様々だが、ユーザーにとってイメージしやすいものが多いと思う。IPM を本来あるべき効率的な経済行為として機能させていくには、その「価値」も含めたわかりやすさが必要だと思う。

IPM の運用にあたり、様々な病害虫・栽培管理も含めて最適化を図らねばならない。今後、AI や IoT を道具として活用することが普通のことになるだろう。ただし、最も必要とされるのは、全体を概観しながら、ケースに応じて柔軟に最適化することができる人材なのだと思う。

若い方には、時折、誰のための仕事なのかを考えつつ、自分なりの IPM を描いてみてほしい。その際、既往の IPM の定義や思い込みが足かせにならないよう、考えは柔軟で自由であってほしい。「価値」を創出するイノベーションにとってもそれが必要だと思う。

（北陸病害虫研究会 会長）